

大学の図書館

第41巻第1号 (No.578)

2022 1



目次

未来を紡ぐ 呑海 沙織 ... 1

特集：2021年この1作品（1冊、1枚、1曲、1タイトル、etc.）

葛飾北斎はカッコいい：映画『HOKUSAI』を鑑賞して 下城 陽介 ... 2

梶井基次郎『蒼穹』…詩人の目に魅入られて 中筋 知恵 ... 3

ミッキーマウスの憂鬱ふたたび 六車彩都子 ... 5

2021年に読んだ「車いすの一級建築士が教えるほんとうのバリアフリー建築」の感想 ... 松川 隆弘 ... 6

このSF小説を読みました 楳 幸子 ... 7

詩人の答えを知った一年 牛島 千穂 ... 8

2021年この1冊『夢見る帝国図書館』（中島京子） 中川恵理子 ... 9

パイロイトの第9 和知 剛 ... 10

社会教育主事講習で出会った1冊 柿原 友紀 ... 11

松中亮治編著『公共交通が人とまちを元気にする：数字で読みとく！

富山市のコンパクトシティ戦略』（学芸出版社，2021） 長坂 和茂 ... 12

「最強の世界」を見てみたい 田辺 浩介 ... 14

未来を紡ぐ

呑海 沙織

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類及び同大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 情報学学位プログラムの歴史は、文部省図書館員教習所まで遡ることができます。昨年（2021年）は創設100周年にあたり、電子展示（年表でみる100年、写真でみる100年）および卒業生アンケートから構成する「図書館学校創設100周年記念事業」を立ち上げました。コロナ禍の状況を踏まえ、いずれもオンラインでの実施となりました。

ふりかえると、100年にわたる図書館員養成の場は、文部省図書館員教習所から、帝国図書館附属図書館職員養成所、図書館短期大学、図書館情報大学、筑波大学図書館情報専門学群（学部レベル）、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科（大学院レベル）から現教育組織へとその体系を大きく変化させてきました。過去の資料の行間からは、先人たちの新

しいカリキュラムや改組についてのあふれんばかりの情熱を感じることができます。携わったひとりひとりが歴史を紡ぎ、今この瞬間も、私たちが紡ぎ続けていると考えると感慨深いものがあります。

大図研は、2020年に五十周年記念を迎え、2021年に大学図書館問題研究会から大学図書館研究会へと名称変更しました。次の50年に向けて、新たに歩き出したばかりです。現在、今年度（2022年度）の発行を目指し、五十周年記念出版物の編纂を同委員会を中心に取りまとめしているところです。過去をふりかえることで、私たちひとりひとりが未来を紡ぐことができればと願っています。

【参考】

図書館学校創設100周年記念事業について
<https://klis.tsukuba.ac.jp/klis100th/intro.html>

（どんかい・さおり／
 筑波大学図書館情報メディア系）

特集：2021年この1作品（1冊、1枚、1曲、1タイトル、etc.）

遅くなりましたが、改めて本年もどうかよろしく願い申し上げます。

「大学の図書館」新年第1号は、「2021年この1作品（1冊、1枚、1曲、1タイトル、etc.）」を特集しました。2021年に読んだ、聴いた、プレイした、などなど作品の中からひとつお選びいただき、紹介・感想を寄稿していただきました。なお、2021年中に出版等されたことにはこだわらず、みなさまが2021年に（初めて）触れた作品についてお伺いしております。

（編集担当：和知）

葛飾北斎はカッコいい： 映画『HOKUSAI』を鑑賞して

下城 陽介

「柳楽優弥が主演していた」という、ただそれだけの理由で、映画『HOKUSAI』を見に行った¹。その時まで葛飾北斎にはほとんど興味がなく「江戸時代の画家だよね」くらいの知識しか持ち合わせていなかったのですが、『HOKUSAI』を見てすっかりハマってしまいました。以下、その顛末です。

映画の概要は「北斎が苦闘をしながら絵と真摯に向き合い、画家として第一人者になりながらも、死ぬまでひたすら描き続ける一代成長物語」といったところです²。ライバル（喜多川歌麿や東洲斎写楽）への羨望や嫉妬、作家（滝沢馬琴や柳亭種彦）との友情など、見どころ満載です。印象的だったシーンは、1つは青年期に海で波を観察し、衝動的に砂浜に絵を描くところで、「ああ、こんな風に何かを感じ取り、体得できるといいなあ」と思いました。もう1つは老年期に「北斎ブルー³」と言われる「青色」と出会うところで、一色一色にも自分が納得できるまで追い求める姿は「カッコいいな」と思いました。

さて、『HOKUSAI』に触発されて「北斎の実際の絵も⁴見てみたいなあ」と思い、数

日後に「すみだ北斎美術館⁵」にも行ってみました⁶。「おお、これがあのシーンで書いていた絵かー」、「ああ、この絵は本で見た時の印象と違って小さいんだな」などと思いつながら見ていたら、あっという間に時間が過ぎていました。資料室は新型コロナウイルス感染症対策ということで閉室していて、「残念無念」と美術館前の公園でぼーっとしていると、「そうだ！ 墨田区の図書館にならたくさんあるんじゃない？」と思いつき、早速調べてみると、なんとすぐ近くに墨田区立緑図書館があるではないか。まさにそこは北斎資料の宝庫で、またまた時間が溶けていったのでした。

北斎のことを知れば知るほど、娘のお栄＝葛飾応為⁷のことが気になり始め、小説⁸を読むやら作品集を見るやらもしました。北斎の晩年にはほとんど応為が色付けなどしていたのでは？ という説など見るにつけ「お栄よ、後世に名を残さなくて良いのか！」とこちらにも感情移入してしまうのでした。

絵を見るだけでは飽き足らず『北斎漫画⁹』の模写もしました。「これを毛筆と墨だけで描いていたのか。うむむ……、ムズイ。」などと呟きながら、少しでも北斎の息遣いを感じようともしました。

普段、美術館には行かない出不精な私を連れ出したり、絵など碌に描かない私にヘンテ

こな絵を描かせたり、あれもこれも何もかも『HOKUSAI』を見た影響です。改めて「映画に影響されることがあるのだなあ」という感想めいた体験談でした¹⁰。

(しもじょう・ようすけ／

東京大学附属図書館)

¹ ふと「映画でも見ようかな」と思い立ち調べてみると、封切りから少し時間が経っていたからか、都内近郊でも2館くらいしかやっていますませんでした。危うく見逃すところだったぞ。

² 詳しくは公式Webサイト (https://www.hokusai2020.com/index_ja.html) をご覧ください。予告編だけでも雰囲気は伝わります。

³ ザッパーン、ザッパーンと波が迫ってくる「富嶽三十六景」の「神奈川沖浪裏」にも使われているようです。

⁴ 本はたくさん出版されているのでいくつか見た。

⁵ <https://hokusai-museum.jp/>

⁶ 常設展は北斎の作品が、企画展ではしりあがり寿さんのコラボ作品が展示されていました。

⁷ 北斎に「おーい、おーい」と呼ばれていたから「応為」という筆名になったという説もあるみたい。

⁸ 山本昌代『応為坦坦録』（河出書房新社）、キャサリン・ゴヴィエ『北斎と応為』（彩流社）、朝井まかて『眩（くらら）』（新潮社）とか。

⁹ 北斎が描いた絵のお手本帳。

¹⁰ 大学図書館員として「どうしたこうした」ということに全く触れていないことに今更気づきましたが、後の祭りでした。

梶井基次郎『蒼穹』…詩人の目に魅入られて

中筋 知恵

そこには、生まれ出ようとする詩がきらきらと散りばめられていた。梶井基次郎「蒼穹」。この掌編との出会いは眩しさから始まった。

目に写る事象や人々を見つめ倒し、珠玉のような言葉を拾い上げる、その鮮やかな技法。「蒼穹」は詩人としての梶井の力量が遺憾なく発揮された傑作である。

いかに客観的な描写に没頭している最中にも、梶井は自らの感情の動きから目を離さない。彼ほど冷徹な観察眼を持つ作家を私は他に知らない。

梶井基次郎は、明治三十四年に大阪に生まれ、昭和七年に肺結核により三十一歳で早世している。闘病生活のなかで命を削るように書き続けた作品の数々。梶井は、肺病に悩む自らの心情や身体感覚から目を背けることなく、むしろ病身という立地点から世界を俯瞰することで、小説に命を吹き込んだ。

初期の作品「檸檬」は、繊細な心象風景の描写を積み重ね、肉体と精神の病的な不安定さを一枚の油彩画のような濃厚さで描いている。

一方、病気がかなり進行する中で書いた「蒼穹」には、澄み渡った心情が満ち、その文体は静謐な音韻をまとう。散文が詩に変わろうとする瀬戸際のきらめきが、私をハッとさせる。

以下、梶井の冴えた視点と鋭敏な感受性を象徴する表現を「蒼穹」から引用する。

…私の眼は、二つの溪をへだてた杉山の上から青空の透いて見えるほど淡い雲が絶えず湧いて来るのを見たとき、不知不識そのなかへ吸い込まれて行った。湧き出て来る

雲は見る見る日に輝いた巨大な姿を空のなかへ拡げるのであった。

その変化を見極めようとする眼はいつもその尽きない生成と消滅のなかへ溺れ込んでしまい、ただそればかりを繰り返しているうちに、不思議な恐怖に似た感情がだんだん胸へ昂まって来る。

私の眼はだんだん雲との距離を絶して、そう言った感情のなかへ巻き込まれていった。

これらの描写から、青空に揺れ広がる雲と、梶井の心の中に揺れ動く感情とが重なり合い、いつしか一つになってゆく様がありありと伝わってくる。

梶井の目は雲の動きを執拗に見つめ続ける。まさに、見つめ倒し、呑み込もうとする詩人の目だ。いや、もしかしたら彼は陽だまりの原っぱに仰向けに寝転がり、顔いっばいに空を受けとめ身動きできなかつただけなのかもしれないけれど…。そして彼は思う。雲の湧き出る場所には一体何があるのだろうか。

雲を見つめるうちに、梶井の心は大きな発見へと辿りつく。その引き金は、ある闇夜の記憶だった。

提灯を持たずに歩いていく村人の背中を、彼はじっと見つめ続けた。その姿が闇の中へ消えていくまで。

そのときの自らの感情を梶井はこう描写している。

その人影は背に負った光をだんだん失いながら消えていった。網膜だけの感じになり、闇のなかの想像になり——ついにはその想像もふつつり断ち切れてしまった。そのとき私は『何処』というもののない闇に微かな戦慄を感じた。その闇のなかへ同じような絶望的な順序で消えてゆく私自身を想像

し、言い知れぬ恐怖と情熱を覚えたのである。

そして梶井は悟る。雲が湧き立っては消えてゆくその源泉にあったのは、透明な山でも幻想の岬でもなく、ただ「白日の闇」だったということ。

彼は、自分の中に生まれ出た感情が言葉となって姿を現すまで、決して空から目を離さなかった。

自分の感情を見極め、その底にあるものを掬い上げることで、梶井は自己を自然現象と一体のものとして客観化し、唯一無二の心象風景を作り上げたのである。

この作品を読了して思う。詩を希求しながらも、梶井の視点は決して現実の世界を離れることはなかった。現実世界、そこには人間たちの暮らしの生々しさがどうしてもなく漂う。この作品の魅力の一つは、「提灯を持たない村人」の登場によって、作品に生き生きとした動き、生活感を呼び込んでいることだろう。自分の内面のみならず、他人との関わりによって喚起される感情を丁寧に描くことで独りよがりな独白の域を脱している。そう、散文詩でありながら、小説としても見事に成り立っているのだ。

「蒼穹」という美しい名を持つこの作品は、私の詩の師匠であり、小説の先達である。宝石のような一作と出会えた幸せを感謝してやまない。

(なかすじ・ともえ／

小樽商科大学附属図書館)

引用・参考文献

梶井基次郎「蒼穹」…青空文庫より引用

ミッキーマウスの憂鬱ふたたび

六車 彩都子

松岡圭祐著『ミッキーマウスの憂鬱ふたたび』(2021)は、過去話題になった『ミッキーマウスの憂鬱¹⁾』(2005)の姉妹編である。舞台は誰もが名前を知っているテーマパーク、東京ディズニーランド。主人公は、カストーディアルキャスト(主に清掃を担当するキャスト²⁾)として働く19歳の永江環奈。パークの広報・親善大使のような仕事を担う「東京ディズニーリゾートアンバサダー」へ、カストーディアルキャストとして初めてエントリーし、三十人の候補者の中から選ばれるために奮闘する。他の候補者は、ダンサーなど華やかでアピールしやすい仕事をしている中、目立った業績もない環奈は、果たしてどのような技能を身に付けていくのか?そして無事アンバサダーに選ばれるのか?

前作は、憧れのディズニーランドで働くことになったところから始まる話だったため、主人公がその実態に落胆していく様子が描かれた。一方、今作は就職してから時間が経過していることもあって、冒頭から既に冷めかけている様子が伺える。仕事はモチベーションが上がりきらない。家族ともうまくいかない。「自分なんて・・・」というネガティブな主人公の性格には、共感する人もいるだろう。そんな中、一念発起し、全キャストから1名だけ選ばれるアンバサダーという目標ができたことで、同僚をはじめとした周囲の助けを得ながら、仕事に対して前向きになっていく様子が見どころである。作中でカストーディアルキャストが「ただの清掃員」よばわりされてしまうことがあるが、物語が進み主人公が様々な人と関わっていく中で、この仕事の大切さが描かれていく点もよい。

また、「夢と魔法の王国」というキラキラした呼び名に反して、準社員と正社員がはっきりと区別される描写があったり、配属先に

よる優劣(作中では「カースト」と表現される)も描かれたりと、他の職場にもありそうな現実的な話になっている(なお、主人公いわく、「カーストの頂点はアトラクションのキャストである」とのこと)。アンバサダーという1名の枠を目指す競争のなかで、嫉妬を受けたり、努力の結果に対していちゃもんがついたりもする。自身の影響によって深刻なトラブルを引き起こしてしまう事態も発生する。このあたりがすっきりと綺麗ごとで解決しないのがリアルである。

働いている場所がディズニーランドとはいえ、メインの仕事は清掃であって、決して派手なアピールができるような業務内容ではない。主人公はそうやってネガティブに自分の仕事を卑下する一方で、アンバサダー候補の研修と仕事の掛け持ちで忙しくなっても、選考のために「ある技能」を習得しても、決して清掃業務を放棄したり疎かにしたりすることはないのである。自分に割り当てられた、限られた業務の中で何ができるかを模索し、周囲の協力を得ること。協力を得るだけでなく、自分自身も努力すること。最後まで自分の仕事を全うすること。そういった姿勢は、どんな職種でも響くものがあるのではないだろうか。

ちなみにこの小説、主人公が今どこにいるか、どこでトラブルが起きているかなどは、アトラクションやエリアの名称によって示されているため、行ったことがありかつ地理を覚えている人は、「ああ、あそこね」と楽しめるようになっている。行ったことがない人は、パークを訪れることがあった際、「ここは小説のあの場面にあった場所だな」と、聖地巡礼を楽しむのも良いかもしれない。

(むぐるま・さとこ/大阪大学)

¹⁾ 中国語訳「米老鼠の憂鬱」も出版されており、CiNii Booksでは大阪大学外国学図書館

のみ所蔵していることになっている。

ii 東京ディズニーリゾートでは、従業員のことは「キャスト」と呼ぶ。客は「ゲスト」と呼ばれる。

2021年に読んだ「車いすの一級建築士が教えるほんとうのバリアフリー建築」の感想

松川 隆弘

1) 著者の紹介

著者の阿部一雄さんは、2002年に趣味のオートバイレース中の事故により車イス生活を始めた、阿部建設株式会社の代表取締役社長です。この書籍では、障害者、高齢者、その家族に対して、住宅改修・新築などの住環境について、健常者では気付かない点について、解説してくれています。

2) この書籍に興味を持った動機

4年前に妻が外出先で脳幹出血で倒れ（歌手の桑名正博さんと同じ）、特に右半身の感覚障がい、平衡感覚の欠如による歩行が困難な後遺症のため、車イス生活が始まりました。この生活において書籍でなにか参考にできるものがないかと思い、手にとりました。

3) 会報に投稿することにした理由

大図研の会員に、在学生在が課外活動での負傷による車椅子生活者となったり、身体障害者の教職員、一般開放による高齢者の方に対して、バリアフリーの必要な支援について理解を深めてもらえたらという願いで執筆することになりました。

4) 自宅のバリアフリーへの改修について

一般的には、住居はワンフロアのマンションか、2階建て以上の一戸建てかと思います。ワンフロアであれば、上下の移動は無いですが、洗面台、リビング、キッチンなどの敷居があれば例え3ミリ程度でも車イスでは段差を感じて自力での移動の妨げとなります。洗

面台については、椅子に座って膝を洗面台の下に入れる空間が必要であり、上下フロアの移動については、著書ではエレベーターを推奨していますが、床面積が狭い場合は、階段にイス型の昇降機の設置が必要になります。

また、トイレですが、車イスでトイレに入るとは、手すりを設けるだけでは済まずに、車イスとの導線が必要になります。それが困難であれば、部屋の隅にポータブルトイレの設置が必要となります。最近では、ウォシュレット機能を持つポータブルトイレも市販されています。

この本では、建築士の立ち場から設備面を解説されていますが、介護用品も含めて快適な住環境を整える必要があります。

5) 図書館でのバリアフリーに向けての要望

公共施設を利用した際の快適な環境の実例をお伝えします。車イスの人が外出する際に最重要項目は、トイレです。移動手段の電車・バスについては、簡易スロープなどが設置されているので安心です。しかし、多目的トイレは必須事項であるにも関わらず、十分に整備されていない例があります。例えば、障がいは右半身麻痺、左半身麻痺、下半身麻痺など多種多様です。しかしながら、多目的トイレでは、トイレレットペーパー、ウォシュレット、使用後の水を流すボタンが左側か右側の片方に設置されている場合が殆どです。これでは、利き腕にそれらが無いと、ひとりでは利用できませんし、たとえ介護者がいても、手すりの位置が不自由な手の方であれば、転倒などの危険度が増加します。また、男性用・女性用のいずれかに設置されていると介護者が異性の場合、利用を躊躇します。

写真は、大阪にある病院内のトイレですが、障害者が車イスで一人で使用する際は、ウォシュレットが腕の真横にあるのでボタンを押せないし、洗面台の石けんはプッシュ式のため片手では噴射できません。このように病院のトイレですら、完全な設備ではないのです。

公共施設に全ての症状の方への配慮を求めるのが無理なのかもしれませんが、バリアフリーに向けて今後検討して貰えればと願っています。



病院内トイレ



書影

(まつかわ・たかひろ／大阪地域グループ)

このSF小説を読みました

楳 幸子

未来を疑似体験できるのがサイエンスフィクション(SF)の醍醐味です。2021年に読んだSFのなかで、一番のお勧めはマーサ・ウェルズの『マダーロボット・ダイアリー』シリーズ^{1), 2)}です。書店でハヤカワ文庫SFや創元SF文庫をチェックしていたときに目に止まりました。

表紙に宇宙船をバックにした少年が立っていて、上巻はボディーアーマー姿、下巻はゆったりとした私服姿です。内容紹介に「かつて重大事件を起こしたがその記憶を消されている人型警備ユニットの“弊機”は、密かに自らをハッキングして自由になった」などがあります。表紙の高校生ぐらいの少年ロボットが意外と悪党で、依頼人を守るために不法行為すれすれのハッキングや派手なアクションを繰り返したりするのかなと思いつつ購入しました。

初見で本を買うと、帯や内容紹介から想像するストーリーとはかけ離れていることが多いのですが、この本も思い描いていたような主人公ではありませんでした。“弊機”と自

称する人型警備ユニットはれっきとした成人で人間が苦手、用がなければ引きこもって連続ドラマを見ていたいインドア派です。止むに止まれずハッキングをしたものの、面倒な人間たちを守っての戦闘では撃たれたり食べられたり、よく瀕死の重傷を負っています。

読み進めるうちに人型警備ユニットの実状も明らかになります。宇宙船による惑星間の移動が当たり前の世界で、資源開発や現地調査のさいに保険会社は警備ユニットを派遣します。人工知能も発達していますが、高度な警備が求められるときは有機組織コンポーネントを持つ警備ユニットが必要とされるのです。身体は人工物で構成され武器も組み込まれていますが、判断する脳はクローン培養された有機組織であるロボットです。同じ規格で製造され、宇宙船では貨物区画に収納されます。

警備ユニットは職務以外の情報をほとんどインプットされていません。備品扱いです。著しく損傷した場合は遺棄することが認められています。しかし感情があります。主人公は娯楽メディアから人間の行動を学び、また実際に体験することで顧客たちと仲間意識を育んでいきます。

物語は一貫して“弊機”視点で語られます。最初は一緒に部屋で過ごすことを提案されたら恐怖におののいていた“弊機”が、少しずつ慣れて歩み寄り、何かあったときはそばに居ることを選ぶようになる。その変化がいとおいしくてハグしてあげたくなります。ただ本気で拒否されるので、その気持ちも尊重したいと思います。

将来実現するかもしれないクローン脳が存在する社会に思いをめぐらせると同時に、コミュニケーションに戸惑う主人公に今の私たちと同じ悩みをかかえているなと共感する。SFは多彩な視点を読者に与えてくれます。様々な利用者を想定してサービスをおこなう図書館にも通じるところがありそうです。毎

回そう思って読むわけではありませんが、SFはお薦めです。

参考文献

1) マーサ・ウェルズ著, 中原尚哉訳. マーダーボット・ダイアリー 上下巻. 東京創元社, 2019, 2冊 (305p, 350p), (創元SF文庫), ISBN978-4-488-78001-2, 978-4-488-78002-9

2) マーサ・ウェルズ著, 中原尚哉訳. ネットワーク・エフェクト: マーダーボット・ダイアリー. 東京創元社, 2021, 540p., (創元SF文庫), ISBN978-4-488-78003-6

(かじ・さちこ/安田女子大学図書館)

詩人の答えを知った一年

牛島 千穂

振り返ると、2021年は小さな子どもと接する機会のずいぶん多い一年だった。保育園に通う甥たちに、親しい友人の子たち、地域の小中学生…。通りすがりに挨拶やたわいのないことを話したり、留守を預かったり、数週間泊まりで一緒に過ごしたこともあった。子どものいない私にとっては、どれも新鮮な時間ばかりだった。なぜだか子どもに好かれるようで、彼らはみんな色んな形で私に接してくれた。

そうして子どもとたくさん過ごした日には、この本をよく思い返していた。

『谷川俊太郎質問箱』

『星空の 谷川俊太郎質問箱』

これらが、私にとっての「2021年この1作品」になった(2冊だけれど)。

少し紹介すると、この本は、とあるwebサイトでの連載企画を元に作られた。詩人の谷川俊太郎さんが、読者や著名人から寄せられた質問に、一問一答のような形で答えて

いったものだ。サイトの企画は好評だったようで、『星空の』のついた続編が作られた。質問者は年齢、立場も実に様々で、その答えは谷川さんの数々の作品やお人柄をうかがわせる秀逸なものばかりだ。個人的には、詩のような答えを味わうなら最初に出版された『質問箱』を、より具体的で深い答えを読むなら続編の『星空の…質問箱』をおすすめする。

私はこれらの質問と答えの中で、特に小さな子どもからのものが心に残っている。どれも子どもという、成長のさなかにあり、“小さな大人”ではない、純粋なこころを持った彼らからの質問に、谷川さんが素敵な答えを書いている。

最も印象的だった、6歳の女の子から寄せられた質問とその答えを、以下に引用したい。

「質問 どうして、にんげんは死ぬの？
さえちゃんは、死ぬのはいやだよ。」

さて、あなたならなんと答えるだろう？谷川さんの答えはこうだ。

「ぼくがさえちゃんのお母さんだったら、「お母さんだって死ぬのいやだよー」と言いながら、さえちゃんをぎゅーっと抱きしめて、一緒に泣きます。そのあとで一緒にお茶します。(…中略…) こういう深い問いかけにはアマタだけじゃなく、ココロもカラダも使って答えなくちゃね。」

初めて読んだときには感服した。この答えに、子どもと接するうえでの大切なエッセンスがこめられているように私は感じた。

今年、子どもたちとたくさん接する中で、彼らは本当に毎日を全力で生きていて、その中で感じた思いをまっすぐにつけてくるのだということを感じた。そうした思いに、こちらまっすぐ、ごまかしでなく、彼らが理解できる言葉で、しかも理屈としてもおかしくない答え、思い、気持ちを返してあげたいとよく思った。そんなとき、どうしたらいいのだろう。そうか、アタマだけでなく、コ

コロもカラダも使えばいいんだ。それなら…と考へて、彼らに伝えていった。そうして心を通わせていくと、子どもたちから、うまく言葉にはできないたくさんのことを、学び、知ることができた。

質問には、もちろん大人からのものもあって、仕事のこと、大切な人のこと、生きることと死、などなど、深くて普遍的な質問が並んでいる。そのどれもにおいて、先のような大切なエッセンスの入った答えが、分かりやすい言葉でつづられている。

2021年は、私にとって生活環境が変わった一年でもあった。自分や周囲のことを振り返る時間のなかで、この本がやさしく答えをしめしてくれた。この先も折に触れて、読み返していきたい作品となった。

ところで最後に、図書館員な皆さまへ質問してみたい。

私の紹介したこの本、NDC分類で整理するとしたら、どこに入れますか？または、どこにあると手に取りやすいですか？私は哲学として100番台かなあと思ったのですが、「詩」だととらえて910番台なども良いでしょうか？大図研の皆さんとは、そんな質問をやり取りしていけたら、きっと楽しいと思った。

(うしじま・ちほ／所属：非公開希望)

参考文献

『谷川俊太郎質問箱』（谷川俊太郎，糸井重里事務所，2007.8）

『星空の谷川俊太郎質問箱』（谷川俊太郎，ほぼ日，2018.1）

2021年この1冊 『夢見る帝国図書館』（中島京子）

中川恵理子

図書館員として、図書館が出てくる作品(図

書館が舞台の小説、漫画、ノンフィクション、映画なんでも)となれば、手に取らずにはいられない性分です。今まで、村上春樹の『ふしぎな図書館』、瀬尾まいこ『図書館の神様』、埜納タオ『夜明けの図書館』、ヴィッキー・マイロン『図書館ねこデューイ』などなど様々な図書館が舞台の作品を読んできました。そんな私が2021年に出会ったこの1冊は中島京子の『夢見る帝国図書館』です。

『夢見る帝国図書館』はタイトル通り、帝国図書館、現在の国際子ども図書館が舞台となっています。この作品は、ただの図書館が舞台となっている小説ではありません。帝国図書館は、国立国会図書館の前身ですが、国立国会図書館のカウンターには「真理が我らを自由にする」という理念が刻まれています。『夢見る帝国図書館』は、図書館の理念や信念を小説という形に落とし込み、みごとに表現しています。

フリーライターで小説家の主人公は、国際子ども図書館に取材帰りに、喜和子さんという年輩の女性と知り合います。喜和さんは、私は昔図書館に住んでいるようなものだったと語り、何やら謎めいた過去がある。そんな喜和さんは、主人公が小説家であると知り、上野の図書館が主人公として語る小説を書いてみないかと持ち掛けてきます。作品のタイトルはもう決まっている『夢見る帝国図書館』だと。

この中島京子の『夢見る帝国図書館』は、入れ子構造となっており、主人公と喜和子さんのストーリーの間に、図書館が主人公の小説『夢見る帝国図書館』が展開されます。この作中の『夢見る帝国図書館』がまたとても面白いのです。

西洋の図書館を日本に紹介した福沢諭吉の『西洋事情』からはじまり、図書館の歴史が史実をもとに書かれています。「図書館の歴史は金欠の歴史」とされるほど、何度も出てくる資金難の話は、図書館員として思わず共

感してしまいます。また、図書館を使った文
学者もたくさん出てきます。幸田露伴、谷崎
潤一郎、芥川龍之介、宮沢賢治など、みなさ
んも知っている作家も出てくるのではないで
しょうか？ちなみに、私のお気に入り、樋口
一葉と恋する図書館の話です。

喜和子さんの人生と図書館の歴史が、交互
展開され、並走し、絡み合っています。喜
和子さんが探している「としょかんのこじ」
という絵本を追うことで、喜和子さんの激動
の人生がまるでレファレンスのように解き明
かされていきます。「としょかんのこじ」と
いう絵本はいったいどんな絵本なのか？喜和
子さんの過去とは？図書館との関わりは？図
書館の事がますます好きになること間違いな
し！の2021年に出会ったこの1冊です。

読み終わったあと、作品の舞台となった国
際子ども図書館に絶対に行く！と意気込んで
いましたが、まだまだ県をまたいでの移動が
難しい状況です。実際に行けるのは、もうし
ばらく先になりそうですが、いつか国際子ど
も図書館で、のんびりと作品の世界に浸りたい
と思います。

(ながわ・えりこ／金沢学院大学)

パイロイトの第9

和知 剛

40年以上もクラシック音楽と付き合っ
ていると、ウィルヘルム・フルトヴェングラー
(1886-1954)が残したベートーヴェンの交
響曲第9番、中でも旧EMIから発売されて
いた、1951年7月29日にパイロイト音楽祭
の開幕を飾った演奏のライヴ録音について
は、それにまつわる記事は汗牛充棟の有様で
あり、演奏を称賛する言葉は跡を絶たず、筆
者がいまさら屋上屋を重ねるものでもない
とは考えるのだが、それでも2021年11月25

日に日本国内でも発売された「スウェーデン
放送所蔵によるフルトヴェングラー“パイロ
イトの第9”」(スウェーデンBIS:BIS-
SA9060)は、2021年の「第9」愛好者、も
しくはフルトヴェングラーの愛好者、ひいて
はクラシック音楽の愛好者における大きな
ニュースであり、また衝撃であったと思う。
筆者は必ずしもフルトヴェングラーの熱心な
聴き手ではなく、フルトヴェングラーに限ら
ず「第9」にしてもそろそろお腹いっぱい
の感はあったのだが、にもかかわらず新譜速報
を見てBIS盤の購入を即決する程度のインパ
クトはあった。

いったい「パイロイトの第9」は旧EMIの
名物プロデューサーとして辣腕を振った
ウォルター・レグ(1906-1979)が録音を
手がけたもので、1955年に旧EMIから発売
されたのが初出である。筆者が最初に聴いた
のは、フルトヴェングラーの旧EMI録音が
デジタル・リマスターされ、LPレコードが
日本国内で(当時の)東芝EMIから発売さ
れたときだったと記憶している。このLPを
入手したのは1980年代前半であったことは
確かなのだが、それが正確にいつだったのか
は思い出すことができない(そのLPは1985
年頃に誰かに貸したきり返って来なかった)。
1952年に大病で倒れるまでのフルトヴェン
グラーの演奏は、その激烈な深淵と熱狂の振
れ幅において、他の指揮者に聴くことのでき
ない劇的かつ重厚な雰囲気醸し出している
ものだが、EMI版「パイロイトの第9」は記
念碑的な音楽であるベートーヴェンの交響曲
第9番が、フルトヴェングラーの芸風とあい
まって、充実した音楽を聴かされるのはもち
ろんのこと、荘厳な大伽藍を見ているような
気分になるものである。

これまでの評価は絶賛絶賛また絶賛という
感のあるEMI版「パイロイトの第9」だが、
いろいろと不思議なところのある録音でもあ
る。わたしの手元にある旧EMI盤(東芝

EMI: TOCE-6510) は、演奏が始まる前にフルトヴェングラーが舞台上に登場する足音とそれを受けての盛大な拍手が入っているものだが、この「足音入りパイロイトの第9」は日本国内にマスターテープが存在するものだとかで、その拍手の前後には編集された形跡が認められるもの。筆者が別に持っている、旧EMIがワーナーに買収されたのちに発売された0190295975098(2010年デジタル・リマスター)という5枚組のボックスに収録されている「パイロイトの第9」には足音がない。

そして2007年にドイツのオルフェオから発売されたバイエルン放送音源による「パイロイトの第9」(C754081B)が、EMI版「パイロイトの第9」に関する疑義を呼び起こすことになる。「EMI版『パイロイトの第9』はなにを録音したのか」という疑義である。オルフェオ盤も発売当時、早速購入して聴いてみたのだが、籠もった音質である旧EMI盤に比べてそれなりに鮮明な音質であったこともさることながら、音楽から感じることのできる熱量が少々異なる感触があった。旧EMI盤は熱量が高く一気呵成に進められていくの対し、オルフェオ盤では幾分か冷静で慎重であり、「フルトヴェングラーの第9」を刻印する、突進する終楽章のコードで旧EMI盤はアンサンブルが崩壊して最後の和音が合っていないの対し、オルフェオ盤では何とか持ちこたえて最後の和音も合わせている。明らかに違う演奏なのである。バイエルン放送の録音テープが入っていた箱には「放送禁止」と但書が付されていたという。

そこでこのほどBISから発売された「パイロイトの第9」だが、こちらは1951年7月29日の当日にスウェーデン放送が生中継を録音していた、その番組をそっくりリマスターしてCD化したもの。詳細な聴き比べをした方々がWebに記事を上げているので内容の異動についてはそちらを参照していただ

きたいが、BIS盤の出現によってオルフェオ盤(とBIS盤)が当日の本番であったこと、旧EMI盤が(オルフェオ盤出現以前にも一部で囁かれていた)ゲネプロ(通しリハーサル)での演奏を中心に一部を編集したものであったこと、で結論が出たようである。

残念ながらBIS盤はももとの音量が小さめで、観賞用としては音量をあげる必要がある。「パイロイトの第9」の本番を聴くのであればオルフェオ盤をおすすめする。ただしこれは、旧EMI盤を排斥することを意味しない。足音の謎は残るものの、フルトヴェングラーらしい熱狂と荘厳さがより感じられる演奏は旧EMI盤の方だと筆者は考えている。旧EMI盤を編集して発売したウォルター・レグは、「レコード音楽」というものをよく理解していたということなのだろう。

(わち・つよし/郡山女子大学短期大学部)

社会教育主事講習で出会った1冊

柿原 友紀

2021年は社会教育主事講習の講習事務に終始した1年でした。社会教育主事講習とは、公民館等で働く社会教育主事を養成するもので、主に自治体の社会教育課の職員や学校教員が受講しています。令和2年度からは、修了後に「社会教育士」を名乗れるようになり、NPOや企業に所属する方などにも有用な講習になりました。

熊本大学では対面を重視した講習を行い、コロナ禍の中でも合宿研修や近隣県での宿泊研修などを含む4週間の講習をやり遂げ、36名の修了生を出すことができました。昨年度はコロナ禍での実施を断念したため、担当2年目にして初めて運営に携わりました。感染拡大時に対面ができない場合の準備が必要となった上に、令和元年度までの既修了者が「社

会教育士」を取得するための「一部科目指定講習」の初実施についても平行して準備をしたため、各所との調整や新たに決めなければならぬことが多く、例年以上の業務量でした。学外講師の一部はオンラインでの講義となり、会場でZoom接続等の補助が必要となったため、私もいくつかの講義に陪席しました。社会教育の基礎や公民館での活動等、今まで知らなかった分野の情報を知り、講義の組み立て方やグループワークの進め方等、個人的にも参考になることが多くありました。

その中でも、ファシリテーションの専門家である加留部貴行先生とのオンライン講義の事前打ち合わせの際には、Zoomでグループワークをするためのティップスを多く学ばせていただきました。オンライン講義をスムーズに実施するために、講義を行う際の詳細なスケジュールを作成して講師と補助者が共有すること、オンラインでは内容を詰め込みすぎずに対面の8割程度にすること、対面ならレジメを空欄にして書かせる部分をオンラインでは正しく伝わるように空欄にしないこと、ブレイクアウトルームに入ってから迷わないように自己紹介の順番を指示し、話の進め方や時間配分を事前に説明しておくことなど、大変勉強になりました。「一部科目指定講習」では、50人以上が参加し丸一日に渡る完全オンラインの講義となりましたが、受講者を迷子にさせない配慮された進行で、グループでコミュニケーションをとる時間も豊富にあり、アンケート結果からも満足度が高い講義だったことが伺えました。講義の参考図書にあげられていた、加留部先生のご著書の「参加したくなる会議のつくり方 公務員のためのファシリテーション入門」（ぎょうせい、2021.4）には、ファシリテーションの基礎から、参加者に話しやすくさせるための技術、実際にファシリテーションを行うための進行術、コロナ禍でオンラインとなった

際の試行錯誤により編み出された技法まで掲載されており、全国大会の分科会を実施する際にも参考にさせていただきました。職場での会議や講習会、大図研での例会を進行する際にも役立つ1冊ではないかと思います。

社会教育主事講習の事務を行う事で、図書館も社会教育施設の一つである事を再認識しました。講習の中でも、図書館についての講義や施設見学が含まれています。また、司書資格を持つ方は、社会教育主事講習の4科目中の「生涯学習概論」の科目代替が可能な場合もあります。講習は基本的には無料で受講でき、ほぼオンラインで受講できる講習も行われています。地域や人とつながること・つなげること、地域づくりや学びづくりに興味がある方は、是非受講を検討してみてください。

（かきはら・ゆき／熊本大学）

「社会教育士について」（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/mext_00667.html

（参照：2021.12.26）

松中亮治編著『公共交通が人とまちを元気にする：数字で読みとく！ 富山市のコンパクトシティ戦略』（学芸出版社，2021）

長坂 和茂

本書のタイトルの「公共交通」「富山市」「コンパクトシティ」というキーワードを見て、内容が思い浮かぶ人もいるだろう。おそらく、その考えは誤りではない。

しかし、本書の書名中最も重要なキーワードだと思われるのは「数字で読みとく」である。著者は「はじめに」において「人々の「健康」を増進し、まさに「賑わい」をもたらし、

人とまちを元気にする、そういったポテンシャルを公共交通は持っているのである」(p. 3)と主張する。この主張自体はさほど目新しくない。どこか、公共交通、特にLRTなどの新しい交通システムを推進する立場からは、一般的に主張される内容であると言っている(注1)。しかし、どの程度市民が健康になり、まちに賑わいが戻るのか、その点を根拠をもって主張したものは読んだことがなかった。そう思っていたところに出会ったのが本書である。

本書の最大の特徴は、健康と賑わいを定量的に明らかにしているという点にある。そのことを確認ながら、章立てに合わせて本書を紹介したい。

第1章「公共交通は健康にいい」は本当か?」では、調査の舞台となる富山市のコンパクトシティ政策や、富山地方鉄道の富山港線(富山ライトレール)および富山軌道線(市内電車)を中心とした公共交通、高齢者を対象とした「おでかけ定期券」について紹介されている。

第2章「高齢者健康増進端末機「おでかけっち」の開発」では、GPSデータと歩数を記録する専用端末「おでかけっち」の開発経緯および仕様について紹介されている。第3章以降の調査においてこのGPSデータと歩数データは極めて重要なデータであるため、それを取得するための端末である「おでかけっち」はデザインや名称も含めて、詳細な設計が行われている。

第3章から第5章では、調査結果の分析が行われている。

第3章「公共交通を使うと高齢者はたくさん歩くのか?」では、「おでかけ定期券」の所有・非所有の別と、前章の「おでかけっち」のデータを使った、歩数データの統計的な分析が示されている。「おでかけ定期券」

を所有する高齢者は、そうでない高齢者よりも、一日の歩数が多いことが示される。

第4章「公共交通を使うと高齢者の医療費は抑制されるのか?」では、「健康」すなわち医療費の抑制を定量的に計測するため、同意を得て医療保険データを用いていることが特徴的である。さらに、2016年と2018年の同一人物に対する調査データを比較することで、歩数の経年変化をも明らかにしている。その分析の結果、「おでかけ定期券」の医療費抑制効果は年間約8億円と推定される。

第5章「公共交通は中心市街地に賑わいをもたらすのか?」では、「おでかけっち」のGPSデータとアンケート調査による、中心市街地での「賑わい」すなわち消費行動の調査が行われている。その結果、公共交通利用者は自家用車利用者よりも、滞在時間、歩数、訪問箇所数、消費金額、いずれも多かったことが示されている。

本書が示す結論は、公共交通の利用を促進すれば、高齢者は出歩くようになり健康になり、中心市街地は賑わいを取り戻す、という、本書に興味があれば何度も聞いたことがあるであろうものである。その結論を綿密な調査によって数値的に明らかにしたことが本書の大きな特徴であり、本書の価値であるといえる。

最後に一点、本書の結論を読者が検証するためのデータは、個人情報に関わるものも多いと思われるため当然ではあるが、本書には掲載されていない。この点は元になった論文を参照する必要があると思われるが、この点は何らかの工夫があっても良いと思われた。

注1) 例えば、土居靖範ほか著『LRTが京

都を救う：都大路まちづくり大作戦』(つむぎ出版, 2004)

(ながさか・かずしげ/京都大学桂図書館)

「最強の世界」を見てみたい

田辺 浩介

私の自宅にはここ10年ほどテレビがなかったのですが、今年およそ10年ぶりにテレビを設置しました。以前持っていたのは15インチのブラウン管、今回買ったのは49インチです。その新しいテレビで、NHK教育のアニメ「映像研には手を出すな！」(<http://eizouken-anime.com/>)を観ています。

この作品は、本放送は2020年1月～3月、原作の漫画の連載開始はさらに前ということで、すでにそれぞれご覧になった方も多いかもかもしれませんが、私は「タイトルだけは知っている」という程度でした。再放送が2021年10月から始まるというお知らせをインターネットでたまたま見かけ、今年から申し込んだNHKプラス(NHKのインターネットでの再配信サービス)で見始めたところ、「これは大きな画面で見たい」と思い、迷っていたテレビ購入に踏み切りました。

この作品は高校の部活でのアニメーション制作がテーマとなっており、私は監督担当の浅草氏に感情移入しながら観ています。作品本編での浅草氏の「私の考えた最強の世界」、どのようなものであれ誰にでもある世界、自分にとってそれは、文字通り自律的に発展する「デジタルライブラリー」のある世界です。図書館の存在を意識させることなく、それでいて誰もが日常業務の中で当たり前のように利用し、また利用した成果がひとりだけで図書館の資料として収録される、という代物です。私はそれを実現したいがために、自分でプログラムを書いているのです…ということで、

このせりふのくだりで一気にこの作品にはまりました。

同時に、プロデューサー担当の金森氏のせりふに毎回お腹の痛みと冷や汗を感じながら、なかなか仕上げられない仕事のことを思い出しながら観ています。こだわりを優先させる浅草氏や作画担当の水崎氏へのスケジュールや売り上げや、広報活動への厳しいせりふを聞いたときに(「SNSは遊びじゃねえんだ!」とか)、ああ、自分の仕事の評価を厳しく見せつけられる機会ってどれだけあるとか、それを見ることを避けていやしないか、そもそも「作る人」だけではそういう仕事って絶対完成しないのだよなあ、と胸が締め付けられます。もちろん、そういう厳しさもアニメーション制作のために、生徒会や教員など、プロジェクト進行での戦いを見ていると、怖さと頼もしさの両方を感じてきます。将来管理職ポジションになればと言われるなら、こんなに厳しくできるかなあ。

さて、この作品には登場人物が想像の世界と現実の世界を継ぎ目なしに行き来する、想像が現実を侵食する演出がとても楽しいのですが、それと同時にキーワードである「私の考えた最強の世界」、「私の考えた」という点がポイントだと思っています。つまり、客観的に最強かどうかは問題ではない。先ほど述べた、自分の考える「デジタルライブラリー」のある世界にしても、実際にはGoogleなどが同じようなことを考えているはずですが、かといって自分の考えること、ほかの人が考えることが陳腐かというところ、そんなことは決してありえない。「最強の世界」は別にデジタルでなければ作れないわけではないですが、いまや(作品中で水崎氏が使っていたアニメーション作成ソフトウェアのように)デジタルならではの、アイデアの具現化を助けるための便利なツールがたくさんあります。たとえば本誌2020年4月号の「それぞれのDX」特集に、会員のみなさまの考える、あ

るいはその図書館を舞台とする「最強の世界」が描かれているのを見ると、お互いの「最強の世界」を行き来するのは、意外に敷居が低い気がしてきます。

私の考える「最強の世界」をもっとほかの方に
見てほしいし、みなさんの考える「最強の世界」をもっと見てみたい。一人では「最

強の世界」は想像のままだけど、引き込まれる人が増えたら現実になるのかな…NHKプラスで再放送の再配信を見ながら、そんなことを思っています。

(たなべ・こうすけ／物質・材料研究機構)

大学図書館研究会第53回全国大会のご案内（再掲）

第53回全国大会が、以下の日程と内容で開催予定です。
詳細については、今後、大会Webサイト等で随時ご案内していきます。

日程：2022年9月17日（土）～9月19日（月・祝）

開催方法：オンライン形式

プログラム：

9月17日（土）

・会員総会 ・研究発表 ・記念講演 ・交流会

9月18日（日）

・課題別分科会

第1分科会：大学図書館史

第2分科会：利用者支援

第3分科会：資料保存

第4分科会：キャリア形成

第5分科会：学術基盤整備

第6分科会：図書館経営

第7分科会：図書館建築・デザイン

第8分科会：出版・流通

9月19日（月・祝）

・シンポジウム

全国大会は大図研の中心となる活動です。ついては、会員各位のご参加はもとより、皆様の廻りで大図研の活動や大学図書館を巡る状況に関心をお持ちの方に、お知らせいただくと幸いです。

また、全国大会は、有志で構成する全国大会実行委員会により、企画や運営を行うもので、ご参加いただくと企画から関われる機会となります。

実行委員会に参加を希望される方は、以下までご連絡ください。

【お問い合わせ先】

全国大会実行委員会：taikai@daitoken.com

大学の図書館 第41巻第1号 (No.578) 2022年1月25日 (毎月25日発行) ISSN: 0286-6854
編集・発行: 大学図書館研究会 年間予約購読料: 送料共6,000円

□大学図書館研究会出版部 (出版物購入・問い合わせ窓口)

〒195-8585 東京都町田市金井ヶ丘5-1-1 和光大学図書・情報館気付

Fax: (044) 989-2250 E-mail: shuppan@daitoken.com

<出版物購入代金等振込先> ゆうちょ銀行 振替口座: 00140-6-482205 大学図書館研究会出版部

三菱UFJ銀行 越谷駅前支店 普通口座: 1403054 大学図書館研究会出版部

□大学図書館研究会事務局

〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2 筑波大学図書館情報メディア系 呑海研究室気付

E-mail: dtk_office@daitoken.com

<会費振込先> ゆうちょ銀行 振替口座: 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

「大学図書館研究会誌」ご投稿のお願い

「大学図書館研究会誌」は、大学図書館に関わる調査・事例報告、研究成果等を掲載することを目的として、2019年より年1回発行を目指しております。会員の皆様の報告や研究成果の発表の場として広く利用してください。

現在、第48号へのご投稿をお待ちしています。締切は2022年3月末日です。

- ・投稿は原則として大学図書館研究会の会員が対象であり、原稿は未発表・未投稿のものに限ります。
- ・投稿原稿の種類は、「書評 (10,000字以内)」、「報告 (15,000字以内)」、「資料紹介 (1,600字以内)」です。
- ・投稿にあたっては、投稿規程をご参照ください。
- ・投稿は dtk-kh@daitoken.com にて受け付けています。

なお諸般の事情により査読体制が整わないため、当面の間、論文の投稿受付を停止します。